



# つながりいろいろ、 広がる輪。

私たちは最高に幸せだ。そう思わせてくれる景色を作ろう。

光に反射して芝生が輝いている。樹が大きな木陰を作っている。

子どもたちは大きな声を出して笑っていて、

日なたで、うたた寝をしている大人もいる。

お気に入りの場所で、大好きな人と過ごそう。

なんにもないようで、なんでもある。

今もこれからも、最高に気持ちいい公園です。

そこに、 KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE が仲間入りしました。

少しドキドキしていますが、末永く、どうぞよろしくお願いいたします。

KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE



2021.3.27 OPEN



## INDEX

### ABOUT

|                   |       |
|-------------------|-------|
| KPB ってどうやって作られたの？ | 03.04 |
| どんな人たちが関わっているの？   | 05    |

### 活動報告

|                     |    |
|---------------------|----|
| ART LABO chopsticks | 06 |
| かわいい子にはカメラをさせよ      | 07 |
| 子どもの抽象画入門・大人の抽象画入門  | 10 |
| 陶芸                  | 11 |
| デッサン                | 14 |
| 森の音楽室               | 16 |
| 柴山先生のリトミック          | 17 |
| 安藤先生のリトミック          | 20 |
| ウクレレテラス             | 21 |

### EVENT

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| parkdoor2021          | 23.24 |
| parkdoor2022          | 25.26 |
| 焚火ナイト                 | 27.28 |
| マーケット日和               | 29.30 |
| 花と緑のピクニック             | 31.32 |
| コドモマルシェ               | 33.34 |
| てくてく木育                | 35.36 |
| フシギないきもの・パークブリッジたんけん隊 | 37.38 |



KPB どうやって作られたの？

# 学びの森 Park-PFI 事業

について

## 市民公園・学びの森周辺エリアは ...

各務原市における市街地の中心部にありながら、広大な緑のオープンスペースを有するエリアです。

このため、市ではこのエリアの更なる魅力・価値向上を図るため、民間活力を取り入れた新たな賑わいの創出について、かねてから検討を続けてきました。

近年、学びの森周辺では、民間団体による新しい公園の使い方の提案により、子育て世代を中心とした賑わいの風景が定着するなど、賑わいづくりの機運が高まってきました。

この賑わいをより確かなものとするために、それまで臨時的に駐車場として利用していた区域において、「Park-PFI 制度」を活用した賑わいの拠点となる施設整備を行いました。



### 公園施設の種別

屋内遊戯施設  
便益施設（飲食店 3 店舗）

### 公募対象公園施設の概要

延床面積 / 980.12 m<sup>2</sup>  
1F 803.93 m<sup>2</sup> 2F 176.19 m<sup>2</sup>

### 特定公園施設の概要

トイレ、デッキ、広場、植栽等

### 対象施設

学びの森（地区公園・6.0ha/ 学びの森緑地を含む）

### 事業内容

公募対象公園施設及び特定公園施設の整備

### 事業期間

令和 3 年～令和 22 年（20 年間）

### 事業方式

公募設置管理許可（公募型プロポーザル方式）

### 活用した制度等

社会資本整備総合交付金  
（官民連携賑わい拠点創出事業）

平成 30 年

商業施設等誘致調査業務委託

令和元年  
5 月

サウンディングの実施

令和元年  
8 月

社会実験の実施

10～12 月

事業者募集

令和 2 年  
2 月

基本協定締結

令和 3 年  
3 月 27 日

オープン

おいしいがいつも近くに



ajara

こだわり野菜を使った親子カフェ



はしもとバーガー

ハンバーガーとクラフトビールの専門店



ESPRIT

ベーカリーカフェ

晴れの日だって、雨の日だって、いつでも心地良い



特定公園施設

公募対象公園施設



どんな人たちが関わっているの？



飛騨五木株式会社  
KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE  
イベントプランナー

## 鈴木可奈 すずきかな

愛知県岡崎市出身。現在各務原市在住。  
森のわくわくの庭での勤務を経て、立ち上げ  
とともに KPB へ。  
何度もいきたくなる公園、最高に気持ちがい  
い公園をつくるため、日々 KPB でのイベント  
企画・運営を行っています。

／ 本誌ではコメントをしています！ ／



一般社団法人かかみがはら暮らし委員会  
代表理事

## 長縄尚史 ながなわひさし

ヒトとモノとコトをつなぎ、日々の暮らし  
がちちょっと豊かになるようなイベントの企  
画、暮らしの提案を街の人たちと創ってい  
ます。主に公園の利活用に力を入れており、  
公園でカフェ「カカミガハラスタンド」を  
企画・運営しています。



ART LABO CHOPSTICKS  
森の音楽室

## 小野惇貴 このじゅんき

1986年岐阜県生まれ。現在各務原市在住。  
かかみがはら暮らし委員会事務局、アート  
をメインにしたプロデュース業、組織運営  
のお手伝いなど副業で生きています。

## ART LABO chopsticks



各務原市内在住の講師によるアート講座。

スクール制ではなく、1回からでも参加できるワークショップをメインとし、キャリアに関らず  
アートに興味がある方が気軽に参加できる。「アートをつまむ」をコンセプトにしたワークショップ。

／ 先生はこちらの方々 ／



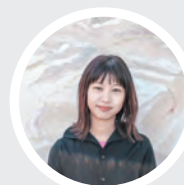
たかださおり



さわだまや



あさのたかゆき



みずのすずの

## ART LABO CHOPSTICKS は ...

KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE(※以下  
KPB) がオープンする約半年前から構想を考  
えて動き始めました。KPB は独創的な形の  
遊具がたくさんあり、子ども大人それぞれが  
使い方を創造して遊べる施設ですが、オー  
プンしてから遊具と同じように何か独創的なコ  
ンテンツを企画運営できないかと思い、各務  
原市在住のアーティスト4人に声をかけてア  
ートスクールをはじめることにしました。絵画、  
写真などジャンルの違う講師それぞれが、オ  
リジナリティが高く、講師自身が本気で取り  
組める内容の講座を考え、2021年4月から  
開講しました。

見切り発車でスタートしたアートスクール

ということもあり、当初は集客に苦戦し、開  
講当日までに定員に達しない講座や参加者が  
少なく開講できない講座もいくつかありまし  
たが、地道に SNS などで告知を続けたこと  
もあり、スタートして半年ほど経つと、安定  
して開講できるようになり、リピーターが少  
しずつ増えていきました。コロナ禍で予定通  
り開講できない講座もありましたが、1年で  
合計10講座ほど開催でき、全体の半分以上  
のお客様がリピーターで講座に通ってくださ  
るようになりました。

まだまだ手探りの状態で各講師と一緒によ  
りよい方法を模索していますが、今後10年、  
20年と続けていき地域にアートが根付くよ  
う活動を続けていきます。【小野】



## ☑ かわいい子にはカメラをさせよ

子どものカメラワークショップ。  
カメラマンと一緒に街を散策し、それぞれの感性でシャッターを切り自分を深めていく。

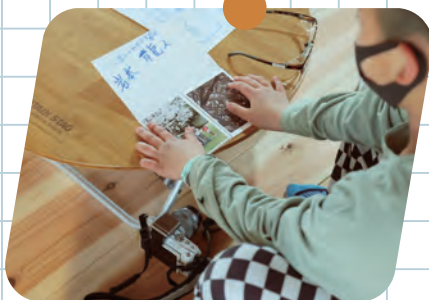


せんせい  
01 たかださおり

### 講師コメント

写真の講座で大切にしているのは、「感性を育てること」です。算数みたいに答えはひとつではありません。簡単なカメラの使い方を学んだ後、実際に公園に行くと、子供たちはたくさんのものを自分で「発見」します。しっかりアンテナをはって、小さなアリやアメンボに気付き、おもしろい形の雲を見つけ、影遊びをする。

どんな子にも、その力はもともと備わっていると思います。感性は育てることのできるスキルだと思っています。わたしはそのお手伝いを少しだけしています。今後も学びの森、市民公園だけでなく年に数回ほど特別編として東光寺や航空宇宙博物館での開催も行なっていきたいです。



### 【担当考察：小野】

開館以前から10回以上開催されていた高田先生のカメラ講座ですが、KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE 周辺だけでなく、高田先生の出身地の近くのお寺や各務原市内の施設などで毎月定期的に開催できました。子どもたちが撮る目線がいつも本当にユニークで、いつもわくわくしながら撮影した写真を見えています。今年度も継続的に開催していく予定ですので、たくさん子どもたちが自分たちの目で見て撮る面白さを経験してほしいと思っています。







## ✓ 子どもの抽象画講座・大人の抽象画講座

子ども・大人の2クラスで実施、初心者向けの抽象画講座



### 講師コメント

大人子ども共に抽象表現、具体的なモチーフを使わずに自分自身について描くことを目標にしました。子ども抽象画入門は、まず身の回りの見えないものや気持ちをイメージすることから始め、色や技法によってどう表現できるかを学びながら、最終的に抽象での自画像の作成を目指しました。大人絵画講座は、個別の作品制作で、テーマから

画材、キャンバスサイズのサイズを自ら設定し、成果展に向けて作品制作を進めています。制作にあたり、誰かの気持ちを考えることや自分自身について深く知ることはとても重要です。制作活動を通して、他者とのコミュニケーションの中にある“見えなかった部分”や“知れなかった部分”に意識がいくきっかけになったのではないかと思います。



### 【担当考察：小野】

描く技術を身につけるだけでなく、描くという行為を学びながら身につける講座を進めてきました。大人も子どもも真剣に自分に向き合い作品を作ってきました。普段生活していて、自分を表現する機会はあまり多くありませんが、日々の中に何かしら感じることや気づくことはあります。表現とは、まず自分が表現したい気持ちを持つことから始まるということ、これからも講座を通してみなさんに伝えていきたいと思います。





## ☑ 陶芸

子ども講座「限界突破」大人講座「指先の記憶」「マイお猪口を作って日本酒」。  
作品づくりではなく陶芸を通して感性や思考を育む講座。

### 講師コメント

子ども講座「限界突破」について 大人講座「指先の記憶」について

粘土の玉を作る回では、複数の玉を両手を使って同時に作る姿がありました。粘土の紐を作る回では、自分に与えられているテーブルでは狭すぎて、床を使って長い紐を作っている生徒さんもいました。粘土を積む回では、倒れないように粘土の支えを作るなど、高く積むための工夫をしていました。

講師として、あまりヒントを与えないでスタートしたことで、子ども達はそれぞれ講座の攻略策を練り自発的に考える事を体験できるように思います。

粘土で同じモチーフを、そのままの状態、聴覚を閉じた状態、視覚と聴覚を閉じた状態の全3回作る講座です。2回目の聴覚を閉じた回では1回目とは違いよく集中でき、3回目の視覚と聴覚を閉じた回では、少し緊張したという意見がありました。視覚は、生きていく上で自分が想像している以上に頼って生活しているようです。

すべての回を通して、段々時間が短くなる経験をしたという意見が多く、五感を削ることで人間の時間感覚に何らかの影響があるように思いました。



せんせい  
03 あさのたかゆき



#### 【担当考察：小野】

陶芸教室を主宰しつつ、普段美術家として活動している浅野先生らしい、あまり他にはない内容の講座を進めてきました。講座の個性が強かった影響か、告知の段階でかなり苦戦しましたが開講してみると参加者が本気でアートを体験できる内容でしたのでお客様の満足度は高かったです。今後も浅野先生しかできない攻めた内容の講座を進めていきたいと思っています。







## ☑ デッサン

石膏像や木材などのモチーフを用いた初心者向けのデッサン講座



### 講師コメント

はじめはどこから描けばいいのか、鉛筆の使い方や物の捉え方が分からず皆さん工夫して描いていましたが、回を重ねる毎に発見を重ねて生徒さん自身の葛藤や迷い、美しいと感じたところを紙に描き起こすという表現力がついてきたことを実感しました。

講座に参加される方の9割がリピートで参加され、より実感することができました。

私が大切にしている「絵を上手に描く事より対象物（モチーフ）を観察する力を身につけること」を生徒さんの作品を通して感じる事ができました。

また今後はもう少し個人にフォーカスしてそれぞれの長所を伸ばしていけるよう、私自身もリベラルアーツの学びを絶やさず講座を継続し、「美術は楽しい」を発信し続けていきたいと思っています。



### 【担当考察：小野】

約3ヵ月間を1クールとし、計3クールをモチーフを変えて講座を進めてきました。

初回から「ヘルメスの石膏像」をモチーフにした難易度の高いテーマでしたが、元々アートや建築に興味がある方が多く参加され、水野先生の丁寧な指導のもとでそれぞれが注意深く、丁寧に描き上げていきました。また、他の講座と比べてリピーターさんが多く、半数ほどの方が1年通して通ってくれたことも印象的でした。担当者の視点から見ても、回数を重ねることで画力が桁違いに上がったと感じています。今後も夜の静かな建物の中で、ちょっとスバルタなモチーフを描く大人の講座を続けていきたいと思っています。





木の心地良さ  
公園の空気を  
肌で感じる



## 森の音楽室



定期的に行っている音楽企画。平日の親子向けイベント「リトミック」と、  
初心者向けのウクレレワークショップ「ウクレレテラス」を開催。

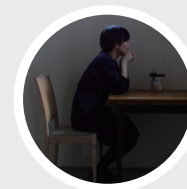
先生はこちらの方々



しばやまともこ



あんどふき



おおばともよ

森の音楽室は、KAKAMIGAHARA PARK  
BRIDGE(※以下 KPB) がオープンする数ヶ月前  
から構想を考えて動き始めました。KPB は3歳  
未満のお子さんが無料で入場できる施設です  
が、オープンしてから主に平日に小さいお子さ  
ん向けにできるコンテンツをできないかと思  
い、各務原市在住でリトミック教室ができる柴  
山先生、安藤先生にお声がけしました。

また、学びの森のすぐ隣の立地のテラスで楽  
しめる音楽コンテンツをやりたいと思い、これ  
まで学びの森でウクレレの演奏などを行って

いた大場先生にお声がけし、リトミックとウクレ  
レの2本を主軸で2021年4月からスタートし  
ました。開館当初は集客に苦戦しましたが、夏  
になる頃には少しずつお客様が増え、夏以降は  
安定して開催できるようになりました。コロナ  
禍で予定通り開催できない時はありましたが、  
1年でリトミック、ウクレレ合わせて35回程  
開催できました。(2021年)

これからも、KPBの木の建物や公園の空気を  
感じられるテラスで楽しめる音楽コンテンツを  
継続的に開催していきます。【小野】



## ✓ 柴山先生のリトミック

ピアノの音に合わせた音楽遊び。  
毎回変わる季節のテーマがあり、身体を動かしたり工作を交えて音遊びをしていく。  
ベビーリトミック・あおぞらリトミック・英語リトミック・コンサートリトミックを担当。



せんせい  
05 しばやまともこ

### 講師コメント

これまでに私が経験してきたベビーリトミックや、あおぞらリトミックなどリトミックという大きな括りの中で、様々な年齢のお子さんや大人へ向けに行いました。音楽教室のリトミックよりも易しく、誰にでも楽しんで頂けるような内容や教具の工夫、出来る限りの工夫やアイデアを膨らませて担当させていただきました。

親子の触れ合いや、人とのコミュニケーション、親子での学びや、キラキラした笑顔。そんな姿を見ますと、優しい気持ちになります。特に秋以降は、たくさんの方々に楽しんでいただけたと感じております。

今後も、音楽・リトミックを通して笑顔溢れるパークブリッジになればと思っています。



### 【担当考察：小野】

これまで長く音楽教室やリトミックを開催してきている柴山先生ですが、毎回季節や時期に合わせた違ったテーマで、これでもかと工夫をこらした演出に毎度感銘を受けています。また、いつもよりも小さい0歳児から参加できるベビーリトミック、学びの森で開催するあおぞらリトミックなど、ここまで広範囲で楽しめるリトミックはここでもしか体験できないと思います。  
いつも想像以上のアイデアで驚かせてくれる柴山先生のリトミック、今後も楽しみにしています。







## ✓ 安藤先生のリトミック

ピアノの音に合わせた音楽遊び。  
毎回変わる季節のテーマがあり、身体を動かしたり工作を交えて音遊びをしていく。



### 講師コメント

お子さんと親御さんに楽しみながら学んでいただけるよう、私も学ばせていただきながら取り組ませていただきました。これからもより良いリトミックを皆さんと楽しめたらと思います。



### 【担当考察：小野】

リトミックの開催実績がほぼない状態からスタートしていただきましたが、普段からソプラノ歌手で活動されている安藤先生の柔らかい歌声にうっとりしながら参加している親子（たまに寝そうになっているお子さんの様子も見かけます）の様子を楽しみに見えています。  
いつもは演劇やコンサートなど、ステージの上で活躍されていらっしゃいますが、他では体験できない木の建物での安藤先生のリトミック、今後も多くの方にご参加いただきたいと思います。





## ☑ ウクレレテラス

初心者向けのウクレレワークショップ。施設のテラスで開催しゆったりとリラックスしながら体験することができる。親子や大人の部として開催した。



せんせい  
07 おおばともよ

### 講師コメント

各務原市内で、ウクレレ教室が、緑いっぱい、風の通る最高の場所がないかな、と探していたところ、2021年、新しくできる木育施設があるので、どうですかと声をかけていただいたのがきっかけでスタートしました。コロナ禍ということもあり、最初は心配していました

が、緑いっぱい、風の通る最高の場所、毎回楽しく開催させて頂いています。

今は子ども達ですが、今後は大人の人にももっと足を運んで頂けるような講座にできたらなと思っています。



### 【担当考察：小野】

大場先生が来ているウクレレテラスの開催日は、公園の緑が普段よりもずっと気持ちよく感じられます。ワークショップに参加しない人も、この日に来た人はウクレレの心地いい音が聞こえるのでみなさんラッキーです。

大場先生の柔らかな雰囲気の中、ウクレレに触ったことのない初心者さんの硬い表情が少しずつほぐれて笑顔になっていく様子をいつも楽しみに見えています。まだしばらく外へ出づらい時期が続きそうですが、ぜひウクレレを手にとって、家で、外で奏でてほしいと思います。





# parkdoor 2021

秋のマーケット日和に並ぶような新しい春のイベントを目指して企画。  
parkdoor は park+door を合わせた造語になっており、新しい公園の使い方の提案や少し特別な公園での時間を過ごしてもらえるような意味をもせた。施設のオープニングイベントと合わせて開催しており、今後も継続した春のイベントとしてエリアを盛り上げていきたいという願いが込められている。

連携：ART LABO chopsticks・tricolore・大場ともよ・ode inc・中央図書館



## KPB から始まる新しい春のイベント



## 担当考察 鈴木



施設のオープン日と合わせて開催しました。単発的なイベントではなく、継続した新しい春のイベントとして定着できるように、“parkdoor” という新しいタイトルをつけて開催をさせていただきました。parkdoor では、幅広い年齢の方に知っていただけるよう、子どもから大人まで楽しめる複数のコンテンツ

を企画しました。施設ではレンガの広場を使った音楽ライブ、テラスでは音楽とコース料理を楽しむ「森のお食事会」を開催しました。休憩場所ではなく、あえてスペースに企画を入れることで、施設として利用のキャパシティを囲わないことを意識しました。また、市民公園では移動図書館車と連携した「青空図書」を開催し、公園 × 図書館の時間としていつもと少し違う公園利用の提供ができたと感じています。マーケット日和に並ぶような、春の新しいイベントとして進化していきたいと思います。





## 今後の広がりへ、膨らむ期待感

### 担当考察

長縄



秋のマーケット日和だけでなく、春にも素敵なイベントを続けていき四季を通じて公園を楽しんでもらいたいという想いではじまった parkdoor。名前の通り公園の新たな扉を開いていけるようにいろいろなコトが行われました。ただイベントとしてその時だけではなく日常につながっていけるように、また日常からつながっているイベント内容です。ART LABO やリトミック、ウクレレテラスなどの特別版や、木で自分達の遊び場をつくっていく【くむんだー】などやりっぱ

なしではなくちゃんと繋がることを大切にしました。

また学びの森では、〇〇マルシェというキーワード特化型のマルシェも開催しました。今回の〇〇はパンと音楽。人気のパン屋さんたち10店舗に出店いただき、ただパンを買うイベントではなく、パンを食べながら音楽を聞きながら公園で過ごすことを提案するイベントです。パンという世界の文化に合わせて世界の民族音楽を演奏していただきました。天気も良く、多くの方がゆったり楽しんでいる印象でした。一部のお店には朝から行列も出来ておりました。出店していただいたほとんどのお店のパンが売り切れたようで、多くの方に来場いただいたイベントとなりました。

## parkdoor 2022

『周年祭と〇〇マルシェ』のテーマで開催した。施設講師としてイベントを開催して下さった方を中心に、1日限定の特別編のワークショップを開催。また学びの森ではパンと音楽をテーマにした〇〇マルシェを開催。約10店のお店と4組の世界の音楽ライブを楽しむイベントとした。

連携：柴山朋子・くるまだち木工室・東近江市木を使うプロジェクト推進協議会  
Art labo chopsticks・大場ともよ・〇〇マルシェ出展者（省略）



### 担当考察

鈴木



今回、観光交流課さんが主催を努めている、桜祭りとも連携した企画づくりも目指しておりました。しかし、桜まつりの実行委員会や河川公園課の企画スタッフ

さんとの事前の連携が不足してしまったことで、エリア一体の見せ方について今後の課題を感じました。今回は連携できたことを一歩目とし、次回の桜祭りでは市民公園や学びの森全体での見せ方を意識した企画づくりに取り組んで行きたいと思っています。



# 焚火ナイト

初心者向けにした焚火イベント。

アウトドアの魅力発信や施設の新しい使い方をテーマに開催。

連携：[flames]、KLINGEN、MURO'sCOFFEE ownroast 他



KPB が自分に関係のある場所に



## 担当考察 長縄



普段施設に足を運ぶことのない方や、道を歩いてる方がふらっと施設に立ち寄ることができたら、焚火を囲むことで新たなコミュニケーションが生まれていき、施設が自分に関係のある場所になったら。そんな新しい施設の使い方を目指してスタートした焚火ナイトです。

同イベントをきっかけに、若いカップルや市外からのご家族、また半数以上が”初めて施設を利用する”という方に参加していただき、普段の利用者層から少しはみ出た層に利用をしていただきました。

焚火ナイトのコンテンツには、「焚火」の魅力を知ってもらうことやアウトドアへの一歩目をつくっていくという側面もあり、子供たちへの火育（火起こし体験やマシュマロ体験）やソーセージを自分で焼いて食べるなどの体験をしていただきました。初心者向けの焚火のワークショップなどもあり、受け身で終わらないイベントとすることを大切にしました。当日は珈琲店などの出店もあり、思い思いの時間を過ごしていただきました。

今後も焚火を中心にしながら様々なキーワードを持たせていき、夜の KPB の使い方・意味・風景をアップデートしていきます。





# マーケット日和 2021

マーケット日和との連携開催。前夜祭では”大人遊び想像 labo”として営業し、脱出ゲームを開催。本祭では子ども部屋の絵本フェスとして、タイムスケジュールと会場を設けた読み聞かせステージを開催した。

連携：こども古本店・各務原市中央図書館

むすんでひらいてぐうとばぁ・柴山朋子・小森有夏  
くるまだち木工室



いつもと違う KPB の姿

## 担当考察 長縄



各務原市主催のマーケット日和、今年のテーマは【公園をリビングに、街をダイニングに】にあわせて『こども部屋の絵本フェス』を開催しました。

4つの読み聞かせステージを設け、音楽フェスのようなタイムスケジュールをつくり開催しました。各務原市中央図書館さんとの連携では、移動図書館車をだしてもらいアウトドアライブラリーを楽しめる、青空の下で読み聞かせをしていただきました。いつもとは違う図書館の姿に終始楽しんでいる様子をとても素敵な風景でした。それぞれの読み聞かせに個性があり、一体感のある読み聞かせばかりでかなり多くの方に喜んでいただけていました。

こども古本店さんの絵本もたくさん売れており、まさに絵本フェスな一日となりました。

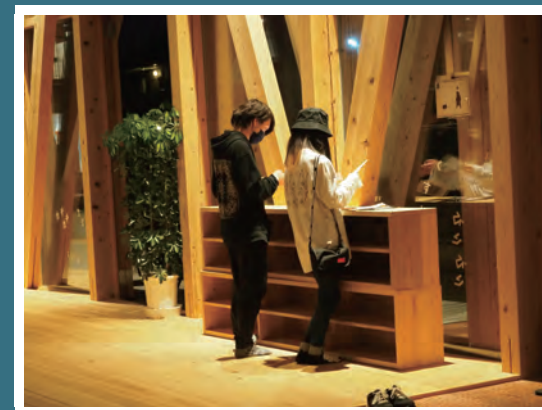


## 担当考察 鈴木



前夜祭に開催された「KPBで脱出ゲームするってよ？」では、夜の6時から9時にかけた大人限定の営業を行いました。子どもの遊び場だけではない使い方を目指した挑戦的な企画になりました。少し集客に苦戦をしましたが、参加された方には大変喜んでいただきました。

また一方で「大人も遊んでみたかった」「中に入るきっかけが欲しかった」という声も聞くことができ、改めてニーズを認識することができました。







市民公園を巻き込んだ地域のつながり

## 花と緑のピクニック

市民公園の花壇に花を植えるボランティア活動と施設が連携したワークショップイベント。施設の飲食店による「特製ピクニック弁当」や、植えた花と同様の花を家庭用にも配布して頂いた。

連携：各務原市役所 河川公園課

### 担当考察 長縄



市民公園の花壇の花をただ植えてもらうのではなく、もっと公園と接点をもてるように、またイベントがゴールではなくそこからお家につながるように設計したのが花と緑のピクニックです。

河川公園課さんの柔軟な対応により公園に植える花と同じものを家庭用にも配布することができ、公園に植えたことを家で家族で行えることができたことはすごく意味があることだと思います。自分たちの植えた花たち、場所にネームプレートをさせたことで、自分たちの花壇となり、植えて終わりではなくそれから成長して姿を見に、家族で公園再度来るということができたのも河川公園課さんの柔軟な対応により可能となりました。

また花壇での花を植えて終わりではなく、その後のお弁当・ご飯、そしてKPBでの遊びタイムとあわせて参加していただき、ご家族が楽しそうな一日を過ごしてみえたのが印象的でした。





# コドモマルシェ

夏休みや冬休みにつくったこどもたちの作品を  
展示販売するギャラリーマルシェ。  
こどもたちが自分たちの手で接客販売も行う。



主催：小森有夏



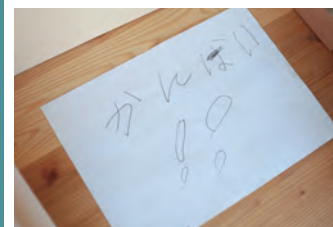
売れることだけが目的ではない

## 主催者コメント

コドモマルシェを企画、開催する中でも大切にしていることのひとつが「売れることだけが目的ではない」ということです。コドモマルシェがこども達にとって成長や自分自身の気づきの場であって欲しいと願って運営してきました。2回の開催を通して徐々に形になってきています。コドモマルシェにはふたつのタイプの成長があることがわかりました。

自分が納得のいく作品を完成させるため

に悩み、試す中での成長と、「恥ずかしい」「ドキドキする」という気持ちを乗り越えて生まれるイベントでの成長です。このような成長が今後もリピーターのお子様、新規のお子様にとってあるように工夫していきたいです。今後力を入れていきたい部分としてはコドモマルシェを通してこども達がより自分自身のことを理解し、それを作品に表現していける手助けをしていくことです。プレイベントの開催や参加者が交流できるスペースを通じて実現していきたいと考えています。



## 担当考察 長縄



コドモマルシェは、こども達が自分で創った作品をギャラリー的に展示して値段をつけて販売します。そこには自分なりのテーマや世界観がありそれに合わせて作品や自分のスペースの装飾をします。お年玉のようにただもらえるお金とは違い、自分の作品が売れることで得られるお金。

日々の暮らしや学校生活の中ではなかなか得ることのできない体験と学び、喜びが

あります。また作品が売れないことでも得られる学びや感情もあります。そして得たお金の使い方も子供たちそれぞれで、そこにも学びがあります。

コドモマルシェはお金のやりとり以外にもメッセージ、コトバのやりとりもあり、色んな方がメッセージカードにあたたかいコトバをこども達に送ります。コロナ禍でより受け身、窮屈になってしまったこども達に正解も間違いもない中で思いっきりアウトプットできるコドモマルシェはこれからも続いていきます。



# てくてく木育

毎月1回開催。季節やテーマに合わせた木のおもちゃをつくるワークショップ。

講師：草野 直美（くるまだち木工室）



木に触れるって、心地良い



## 講師コメント

「人は生まれながらにして木が好き」と言われています。その素材力を頼りに、木の肌触り・香り・温もりを感じていただきながら、心がときめく瞬間に出会えるようなプログラムを、月に一回のペースで実施しています。季節や、施設側の要望に沿ったコンセプトであること、そして何より子どもたちが安全に工作できることを最も大切に考えています。

それらをベースに、ご自宅ではなかなかできないような「心が踊る作業」をプラスしています。親子対象のワークショップの魅力は「木に触れることの心地さ」が他の家族にも伝染するところ。子どもに工作をさせるつもりで参加した親御さんが「いつの間にか自分の方が夢中になってしまふ」ケースも少なくありません。また、木の生まれ育った場所をお伝えすることで、参加者様にも「ワークショップに参加する＝日本の森を育む」といった意識が生まれるといいな、とそう願いながら活動しています。



担当考察 鈴木

同イベントでは「1歳から参加できる」を唄っており、木育や工作が年齢に制限されないことを発信していたように感じています。ワークショップでは、作るだけでなく木の種類や特徴を知る時間もあり、遊び（娯楽）の延長で学べるようになっていきます。表向きがアカデミックになりすぎない「木育」が施設のコンセプトとも合致しているように感じています。また、工作では自分で素材を選んだり、オリジナリティを出す行程が多くあり、作品を作りあげることによって自己肯定感を育むことも大切にしている点もあります。作品づくりだけではない裏テーマも、魅力の一つだと感じています。

毎月、クオリティの高いワークショップとなっており、同イベントを目指して毎月来場していただける方も多くいらっしゃる印象でした。



# フシギないきもの・ パークブリッジたんけん隊

地域活動支援事業を活用。

自然の素材から生き物を作る「フシギないきもの」ワークショップ、  
聴診器や双眼鏡などを使って公園を観察する「パークブリッジ探検隊」を開催した。

講師：柴山 豊尚



目で見て、肌で感じ、発見。

子どもたちが自然の素材（木・実・葉）に直接触れる体験を通して、自然に対する関心や理解を深めることができました。制作を通して、幼少期に身につけた感性や創造力を育む一助になっていると感じます。また親子で活動する時間を共有することにより、お互いの理解や一緒につくり上げる楽しさを味わう時間を提供できたと思います。子どもたちが木の様々な形の素材を通して、自ら創意工夫していこうとする姿勢がとても嬉しく感じました。パークブリッジの周りも公園の緑に囲まれ、施設自体も自然木をふんだんに使った素晴らしい環境の中で講座を開催することができました。

## 講師コメント

聴診器や双眼鏡等、様々なアイテム（使ったことが無いもの）を使うことで、五感を使った体験を提供することができました。また体験のお供として、学びの森や市民公園で探すミッションを準備しました。木の音や木の太さを自分で調べたり、「あったかい」や「ざらざら」を見つけたらなど正解の決まっていないミッションを中心とし、子どもたちの感性による発見が応えとなるような企画にしました。また答えが決まっていなくても、保護者が同じスタンスで取り組むことができました。参加者からは、知識を覚える体験ではなく、自分の体験を通じた学びとすることで、木や自然環境への親近感や愛着がわいたという声や、いつも利用している公園の見え方が変わったという声を聞くことができ、遊びの延長で自然への興味・関心を高めるきっかけづくりに貢献できたと感じています。

## 探検グッズの貸し出し



担当考察 鈴木

## フシギないきもの

ワークショップの実施空間として、多種の素材を並べることや、お皿（トレイ）に運ぶ導線を設けることで、見比べる・自分で選ぶことを大切にしました。またグルーガンや電熱ペンなど作る過程でも様々な道具を準備しました。自分で選択することで試行錯誤ができ、また様々な道具に触れることで、素材の硬さや匂いを知ることもできます。完成するだけでは無く、作る過程でも五感や思考を刺激するような時間が提供出来たと感じています。

